



▲多種との共存 | 白石 梨佳

地球上に棲息する生物の数は、発見されているものだけで約175万種、実際には3,000万~1億種以上存在すると考えられています。私たちが人間はその中のたった一つの種にすぎません。多種と支え合い共存していくために、人間は何をするべきなのか。考える必要があると思います。



Grand design for the future

共立がいま進めている、環境学習への取り組み

“環境”問題が注目されています。共立女子大学・共立女子短期大学では、市民・生活者の視点に立ち、環境問題の諸相を授業の主なテーマにした、そして、自然科学系、人文・社会系、実学・スキル系のさまざまな授業の一部に環境に関する学びを組み込んだ、すそ野が広い、特色のある環境学習を行っています。本学の環境に関する授業の一部をご紹介します。

授業紹介

家政学部 建築・デザイン学科 **林田 廣伸 教授**

主な担当科目 ▶ グラフィック・デザイン演習、CG演習、デザイン概論 ほか

グラフィック・デザインの手法を使うことによって、より環境問題を理解していく



Profile

1976年多摩美術大学大学院美術研究科修了。外資広告代理店のアートディレクターとして21年間勤務。毎日広告デザイン賞、ニューヨークフィルムフェスティバル銅賞、ACC賞などの各種広告賞を受賞。日本デザイン学会、日本広告学会所属。現在も忙しい合間をぬって公益性のある事業やNPOのポスター、マーク等の制作を行っている。

Education policy

生活者の目線で「環境」を考え、メッセージを発信すること

家政学部は人間がいかに生きていくかを探る場であり、そのために必要な知識や技術を学生が習得できるよう、私たち教員は道筋を立てていかなければならないと思っています。私はグラフィック・デザインという手法を通して、もの創りの目的を学生たちに理解させ、どのようなものを創り、どうメッセージしていくべきなのかを体感させる責任があると感じています。

毎年、国際環境NGOのコンサベーション・インターナショナル・ジャパン(以下「CI」)と協働でポスターの制作と発表を行っています。環境問題の難しさは、ほとんどの人が環境問題には気づいているけれども、行動を起こしづらいことです。「今、私たちになにができるのか。」共立女子大学の学生の素朴な等身大の視点でポスターを制作していくことで、展示作品を見てくださる皆さんとともに環境問題のキャッチボールができるのではないかと考えています。家政学部で学ぶ環境とデザインには、そういった大きな目的と使命があると考えています。

Main class

広告制作のメソッドを活用して、公益性のあるテーマに取り組む

2003年から、地球温暖化や、水と衛生など、環境をテーマにしたグラフィック・デザインの取り組みをゼミで続けています。2005年から現在まで生物多様性をテーマにCIと協働展示と発表を行っています。

テーマからどのようにしてアイデアを導き出すか。それはキーメッセージとキービジュアルをしっかりと構築することです。そしてそれを表現するデザインの技術が必要です。勿論、これがなかなか難しいのですが、これらを導き出す広告制作のメソッドを用意して、学生に理解させ、それらを活用することにより、単なる感覚ではない作品ができると信じています。作品制作のプロセスは彼女たちの環境意識を向上させます。この大学を卒業して、社会に出ていった時、また家庭をもった時にも、環境に対する気持ちが持続し行動につながっていくことを、私はいつもイメージして授業に取り組んでいます。



CIと共立女子大学 林田ゼミ協働展示・発表会

これまでに、地球環境パートナーシッププラザ(環境省と国際連合大学の協働事業として設立)、東京・銀座ソニービル、トウキョウマリネチドウギャラリー、世界銀行情報センター、JICA地球ひろば、丸の内・住友信託銀行、スターバックスコヒージャパン銀座マロニエ通り店、三菱地所丸の内さえずり館等で展示と発表会を行っています。

国際学部 国際学科 **細野 豊樹 教授**

主な担当科目 ▶ 環境・科学の諸課題、政治分析の基礎、アメリカ文化論、地球環境論 ほか

環境問題についての知識を体系的に伝え、判断の基準を養う
自分が住む街の環境を調べ、参加型の意識を育む



Profile

1994年東京大学大学院法学政治学研究科修了。公共政策学修士(MPP)、法学修士。研究分野は政治学、アメリカ研究、環境学など。環境庁での行政経験と専門知識を生かしながら、アメリカ合衆国の環境政策や地球環境問題について、研究・分析を続けている。またインターネットなど、情報技術が政治に与える影響についても研究。最近の主な業績に「気候変動の科学をめぐる政治——アメリカと国際機関における政策論議のモデル化」、「アメリカ現代政治の構図」、「オバマ政治を採点する」などがある。

Education policy

環境リテラシーの意義、争点につき判断する市民としての教養

3.11以降、日本における環境・エネルギー政策は曲がり角にきています。こうした中で、市民からの政策へのインプットが、今までになく重要です。真の「政治主導」とは、官僚任せが政治家任せになることではありません。市民の声が、政治と行政を動かすことなのです。

政治主導が強くなっていくと、市民の環境リテラシーがますます大事になります。地球温暖化対策にしても、原子力の安全にしても、賛否両論のさまざまな意見が飛び交います。このため、だれが言っていることを信用できるかを、市民が判断する教養が求められるのです。

共立女子大学では、こうした要請に対応すべく、理科系と文科系の専門家が、学問の専門性、体系性を保ちながら、わかりやすい環境教育に注力しています。

Main class

身近な環境問題から入って、知識を広め掘り下げ、自分の考えを持つ

「環境・科学の諸課題」は、政治が専門の私のほか、生活科学・環境科学の芳住先生、地球物理学の杉先生、食品科学・応用微生物学の田中先生の4人の専任教員が「環境と科学」をテーマに、4クラスを設けているのが特徴です。私の授業は、典型7公害(大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、悪臭、地盤沈下、土壌汚染)について体系的に分かりやすく講義する入門課目の位置付けとなっています。教養教育科目は、3・4年次生も受講対象なので、わかりやすさだけでなく、レベルが高い内容を盛り込むことにもこだわります。

今年は、福島第一原子力発電所事故による放射能の健康影響についてもフォーカスしていますが、放射能は専門家の意見が分かれる難しい問題です。授業では学生にさまざまな論点からの記事を配り、判断の難しさを伝えています。また、問題意識、参加意識を高める観点から、自分たちが住む街の環境について調べて書くレポートを、毎年課しています。さらに、今年は若者の目線での新聞等への投書を、課題とすることを試みました。



政策の基礎データを 提供する監視測定

環境政策は、環境の状況の把握から始まる。大気や水の汚染、騒音などを、自治体などが常時監視測定し、それが政策の基礎データとなる。授業では、操作が簡単な騒音計を使って、例えば大きな声は何デシベルか、などを実感してもらっている。

Message 学長メッセージ



共立女子大学
共立女子短期大学
学長

入江和生

近年、世界中で大きな自然災害が頻発しています。自然が人間の手に負えないものになってきているという印象があります。でも、もともと、人間こそ自然にとって手に負えないものであり続けてきたのです。人間も自然界の一員ですが、ややもするとその自覚が薄れてしまうところに問題があります。環境問題とは、つまるところ、いかにして人間を自然界の一員としての定位置につけるか、ということなのでしょう。本学は以前から環境問題にかかわる授業が多く、本学学生は「自然に」環境問題についての見識を深めています。これからは、それをもう少し意識的にやりたいと考えています。環境教育は、深い意味での人間教育なのです。

短期大学 生活科学科 渡辺 明日香 准教授

主な担当科目 ▶ ファッション・デザイン論、生活デザイン演習、色彩学 ほか

自分たちが日々、暮らしている“環境”を意識させることで、社会の仕組みへの興味と自主的な行動力を養う



Profile

1996年共立女子大学大学院家政学研究科修了。専門は現代ファッション・色彩・生活デザインであり、若者文化・ファッションやデザインをめぐるコミュニケーション・情報メディアとのかかわりなどを研究している。また、1994年より実施しているストリートファッションの定点観測をもとに、人々や街をとりまく環境の変化を実証的に捉えている。主な著書に「ストリートファッション論」「色のしくみ」などがある。

Education policy

街の話題、ファッションへの興味から「環境への気づき」を育む

生活科学科では、生活に関する実践的な知識・技能の習得を養成目的の一つにしています。私たちに身近な衣服、生活道具や空間は、とりまく環境とともに変化するという視点から、歴史や風土、経済や世界情勢といった社会環境が生活に影響を与えることを、まず理解してもらいます。同時に、演習や学外授業を通じて、地球や自然環境といった大上段の環境だけが対処すべき問題ではなく、日々の生活や人々の装い、街や地域などの、より身近な環境について考察する必要性を教えます。ライフスタイルを変えることで解決できること、またその可能性を、学生一人ひとりが自発的に考え、行動できる主体になってほしいと考えています。

Main class

流行に流されないために流行を知る。環境とは何かも自分で考えていく

「生活デザイン演習」では、彼女たちに身近なスタジオジブリのアニメを題材に、環境を考える授業を進めています。「もののけ姫」では、人間が生み出した科学技術が森林や動物を消滅させてしまうという、自然と人間の相克がテーマになっていますが、娯楽として見てきたアニメの中で、実は語られていた自然破壊の現実を、自分たちはどう受け止めていくべきなのか。彼女たちの興味や感じたことの視点に立って授業を進めます。

教養教育科目の「デザインの現在」では、近代化とデザイン様式の変容を扱いますが、消費者として、時には生産者として活動する私たちが、現代社会の根底にあるデザインと消費の関係を考えるにあたって、ファストファッションと流行の問題や、「あなたのTシャツはどこから来たのか」といったグローバル社会を扱ったものを題材にします。

また、物理学者として著名なエイモリー・ロビンズの「分散型エネルギー社会」なども紹介し、直面しているエネルギー問題を中心に、環境デザインの重要性について考察を進めています。



学生が親しみやすい DVD、テキスト

デザインする側や消費する側ではなく、生産する側に焦点を当てたドキュメンタリー「女工哀歌」は、学生たちにリアルに響いている。また、カラー&デザイン研究室で公開している「ストリートファッションレポート」は各界からも注目されている。
<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/nyusi/street/index.htm>

国際学部 国際学科 立松 美也子 准教授

主な担当科目 ▶ 法学概論、国際法I、国際組織論、国際社会特論Ⅲ(国際協力) ほか

社会でますます重要になっていく環境意識を、グローバルとリーガルを基準に読み解き、現在進行形の問題について考察する



Profile

1995年上智大学大学院法学専攻満期退学。専門は国家を主たる規律対象とする国際法。その中でも、とくに国家間構造の中で、いかに個人の保護を行うかをテーマとして国際人権法や外交的保護について研究を進めている。論文に「人権の普遍的保障」、「人の移動、難民」、「感染症」、「(以上、「地球的課題と法」所収)、「公害」(「ヨーロッパ人権裁判所の判例」所収)などがある。

Education policy

異なる文化を乗り越え、共通合意に達するための判断基準を養う

私たちが環境問題について考えるとき、自分と自分のまわりから始めるのはもちろんですが、他者とのかかわりを含めたリーガル・マインド、そして世界がつながっているというグローバル意識が大変重要なキーワードになります。環境保護と経済成長を両立させ、現在の世代のみならず、後の世代の発展も持続可能にしようとする国際環境法を学びます。国家間の合意である条約は、いかにして成立したのかを考えることは、その底流を流れる法原則を知ることになります。社会に羽ばたく学生の皆さんとますます重要になる環境意識を育んでいきます。

Main class

私たちが成し遂げてきた成果を学び、次の時代への強い意志を理解する

国際社会特論Ⅲ(国際協力)の授業は、予防原則やサステナビリティなど種々の法原則に基づく環境国際法を学ぶ授業です。環境保護は当然と感じている方が多いと思われませんが、現実社会においては、私人の財産権の保護という法益も存在します。また、途上国には発展という課題もあります。環境保護を行うため、対立する法律上の利益をどのような形で妥協させてきたのでしょうか。この講義においては環境保護を国際法上の視点から捉えて考えます。具体的には、国際環境法が対象とする環境とは何かを最初に学び、国際法の一分野として環境法があるのかを考察し、そして国際環境法がどのように発展してきたかを学んでいきます。成立背景、成立形式、義務の特徴、管理責任などについて、それぞれ専門的に考察し、また実際にあった事例、国際判例などを題材にして、より深く検討していきます。

その他にも、「南北対立を緩和する概念」、「環境保護と自由貿易は矛盾しないのか」、「武力紛争という特殊な状況下で環境保護は可能か」など、今日的な問題も取り上げ、現在進行形の環境問題について取り組んでいます。



授業で使用する テキスト類

「国際条約集」は環境条約すべてを網羅してはいるが、度々利用することになる。授業終了時にはポロポロになってしまうことも。事例によっては日本語の翻訳がない。自ら翻訳することは背景を読み解くためにも必須のプロセスだ。



eco tour

共立アカデミーエコツアーのご紹介

共立女子大学・共立女子短期大学は、大学と社会の接点として共立アカデミーを設置しています。共立アカデミーでは、学生をはじめ卒業生や一般の方々にまで、広く学びの場を提供。特別企画として、環境問題について学べるエコツアーを開催しています。ぜひご参加ください。

お問い合わせ窓口：〒101-0003 千代田区一ツ橋2-6-1
学生課 共立アカデミー

TEL.03-3512-9981



詳細はパンフレット
「共立アカデミー2011
後期講座のご案内
共立女子大学・短期大学」
でも
ご覧いただけます。

今話題の風力発電所見学ツアー

風力発電所 ハマウイングを見に行こう！



横浜市では、自然エネルギーの利用促進や地球温暖化対策の一環として、そして、環境行動都市の実現に向けて、市民一人ひとりが具体的行動を起こす契機とすることを目的として、風力発電事業を進めています。この風力発電所、通称“ハマウイング”は横浜みなとみらい地区に隣接した場所に建てられており、普段はなかなか近くで見ることができません。

この機会に風力発電を見学し、環境について考えてみましょう。

*現地まではバスでご案内いたします。

— 定員	40名
— 受講料	学 生 2,000円 卒業生 2,000円 一 般 2,500円
— 日 程	9/14(水) 10:15～13:15(予定)
10:15	共立女子学園4号館集合
10:30	バスにて出発
12:00頃	ハマウイング到着 現地にて施設説明・見学
12:45頃	現地出発
13:15頃	横浜みなとみらい地区到着 現地にて解散予定

東京の川を巡るエコツアー

都心の水辺でエコツアー ～神田川・日本橋川コース～



人間が地球上で暮らすために最も必要な物は「水」です。昔から私たちは、水を使うために沢山の知恵と努力を繰り返しています。その水と接する最先端の場所が「水辺」です。東京の水辺を巡ると、歴史・文化・環境破壊のメカニズムなど、普段何気なく暮らす都市部での生活が、自然に対してどれ位影響を及ぼしているのかを確認することができます。

排気ガスの出ない電動ボートで、東京の川を巡りながら、歴史・まちづくり・私たちの生活と川のかかわりについて、楽しみながら学ぶガイドツアーに参加してみませんか。

普段の生活とはまた違った視点で、東京という街を見つめなおすこともできるはずですよ。

— 定員	9名
— 受講料	学 生 3,000円 卒業生 3,000円 一 般 3,000円
— 日 程	10/19(水) 13:30～15:00(予定)
13:30	新三崎橋集合(水道橋駅前) 乗船 神田川・日本橋川巡り
15:00	新三崎橋到着 解散

共立女子大学・共立女子短期大学

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1

URL ▶ <http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/outline/kankyo/>

